

【短報】沖縄島にも侵入しているアフリカヒラタキクイムシ

アフリカヒラタキクイムシ *Lyctus (Xylotrogos) africanus* Lesne, 1907 は、ナガシクイムシ科ヒラタキクイムシ亜科の小甲虫で、近年、関西地方を中心に確認地域が広がっている外来種である。

本種の海外における分布は人為的な移入も含めて広域にわたる。和名が示すようにタイプ産地であるアフリカから、ヨーロッパ、アジア、アメリカ合衆国、東南アジアから見つかり、特に熱帯から亜熱帯地域で害虫となっているようである。また本来は半乾燥地に生息すると考えられており、移入先では建築物の内部を構成する乾材のほか、生葉類なども加害し、年をまたいで累代を重ねるため、重要な屋内害虫としての性格が強い(岩田, 1982, 1988)。

日本における発見は比較的新しく、1980年に野淵によって侵入の可能性が予測されてから翌々年に大阪府から記録されたのが最初である(岩田, 1982)。ただし、過去には近似種との混同も疑われることから、日本への侵入時期はさらに遡る可能性が指摘されており、少なくとも1955年には奈良県で採集された標本が存在する(岩田, 1989)。その後、東京都、愛知県、千葉県からも見つかり(野淵・鈴木, 1993; 岩田, 1995; 田中・山野, 1997)、また最近では古川ら(2009)が、全国のシロアリ防除業者、建材メーカー、住宅メーカーからヒラタキクイムシ類の資料提供を受けてサンプルを同定した結果を示し、本種が最も多く見つかり、宮城県

仙台市、東海地方、近畿地方、中国地方、九州、沖縄島から2008-2009年の期間で25件が確認されたことを報じている。

筆者は2014年、家族旅行で沖縄島を訪れたおりに本種を採集した。沖縄島からは南部の那覇市、浦添市ですでに確認されているものの中からは記録がなく、また沖縄島からの具体的なデータをとまう報告はな



図1. 沖縄島産のアフリカヒラタキクイムシの♂。スケールは0.5 mm.

いようなので記録にとどめておく。

1♂, 沖縄県名護市安部, 7. V. 2014, 筆者採集・保管.

午後8時ごろ、飲食店で夕食をとっている時に食卓に落ちてきた個体を確認した。採集時はテーブル上の照明に誘引されたと考えたが、本種は昼行性で夜行性の近似種ヒラタキクイムシ *Lyctus (Xylotrogos) brunneus* (Stephens, 1830) とは生態が異なるとされる。明るい室内では夜間帯でも活動的な場合もあるようである。

今回の採集例を含め沖縄島における本種の生息状況の詳細は不明であるが、5年ほどの間に離れた複数地点から確認されていることから、すでに一時的な発生にとどまっていなかったことが示唆される。また、本種が確認されていた国内の他地域よりも亜熱帯に含まれる沖縄島が本種の本来の生息地により近い気温であり、その屋内は乾燥し、本種の生息適地であることは十分に予想される。今後の動向に留意すべきと思われる。

末筆ながら、種々ご教示をくださった岩田隆太郎博士に深謝したい。

引用文献

- 古川法子・吉村 剛・今村祐嗣, 2009. ヒラタキクイムシ類による家屋被害調査 - 加害種および発生地域の特定 -. 木材保存, 35(6): 260-264.
- 岩田隆太郎, 1982. ケプトヒラタキクイムシおよび本邦初記録種アフリカヒラタキクイムシの発生例. 家屋害虫, (13/14): 60-63.
- 岩田隆太郎, 1988. 日本産ヒラタキクイムシ科の分類および各種の分布と生態特性について. 家屋害虫, (35/36): 45-54.
- 岩田隆太郎, 1989. 奈良正倉院のアフリカヒラタキクイムシ. 家屋害虫, 11(2): 116-117.
- 岩田隆太郎, 1995. ヒラタキクイムシ. 243-252pp., 日本家屋害虫学会編, 家屋害虫事典, 井上書院.
- 野淵 輝, 1980. 乾材害虫ヒラタキクイムシ類と防虫処理材. 家屋害虫, (7/8): 45-52.
- 野淵 輝, 鈴木憲太郎, 1993. わかりやすい林業研究解説シリーズ No.102 乾材害虫と屋内で発見される昆虫 - 同定, 生態, 被害, 防除 -. 96p, 財団法人林業科学技術振興所.
- 田中和夫・山野倫子, 1997. ヒラタキクイムシ類4種の国内採集記録. 家屋害虫, 19(2): 84-85.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)